

第10回

学生と教職員の交流の場

学内と社会を結ぶ交流の場

琉大21世紀フォーラム



日時

平成20年2月22日(金)
17:15～18:15

場所

琉球大学法文学部新棟215教室

話題：「島嶼からみた地球環境問題とバイオ燃料の課題および展望」

発表者：上野 正実（琉球大学農学部教授）

京都議定書の第一約束期間の初年度（2008年）を迎え、地球温暖化対策は極めて重要な国際・国内政治課題となってきた。今年の夏に開催される洞爺湖サミットに向けて、その動きは加速の度合いを増している。時を同じくした原油価格の高騰と相まって、バイオエタノールやバイオディーゼル燃料（BDF）などのバイオ燃料が大きくクローズアップされてきた。この動きは、わが国ではにわかに湧き上がったブームのように捉えられている節もあるが、アメリカを中心に周到に準備されたエネルギー・食糧戦略の一端をかい間見ることができる。これによって食料不足や価格高騰を招き、貧しい人々だけでなく、私たちの生活や産業に大きな影響を与え始めている。わが国もようやく重い腰を上げて、2030年までに国産バイオ燃料を600万kLまで増産する数値目標を掲げた。平成20年度は食料と競合しないセルロース系バイオマスのエタノール化に巨額の予算が付けられ、試験研究機関や民間企業が一斉に走り出した感がある。このような流れを島嶼という特殊な空間から眺めると何が見えるのか？宮古島や伊江村におけるバイオエタノール事業のように、沖縄はわが国におけるバイオ燃料の先行地として位置づけられている。研究開発・実証面におけるこの優位性を維持しながら、次のステージに進むには何が必要なのか？このような課題と展望について概説するとともに、バイオ燃料を核とする島嶼地域エネルギーシステムと循環型社会構築の重要性、および、バイオ燃料特区構想について紹介したい。

発表者プロフィール



上野 正実
琉球大学教授

略歴

- ・昭和48年3月 鹿児島大学農学部 農業工学科 卒業
- ・昭和50年3月 九州大学農学研究科 修士課程 修了
- ・昭和53年3月 九州大学農学研究科 博士課程 単位取得 退学
- ・昭和53年4月 筑波大学 研究協力部研究協力課 文部技官（準研究員）
- ・昭和56年1月 筑波大学 農林工学系 助手
- ・昭和56年3月 琉球大学 農学部（農業工学科）講師
- ・昭和58年4月 琉球大学 農学部（農業工学科）助教授
- ・平成10年4月 琉球大学 農学部（生物生産学科）教授



●今後のフォーラム（予定）●

第11回 講 師：赤嶺 守（琉球大学 法文学部 教授）
 話 題：沖縄における中国食文化の受容と変容
 －食文化からみる中琉関係史－

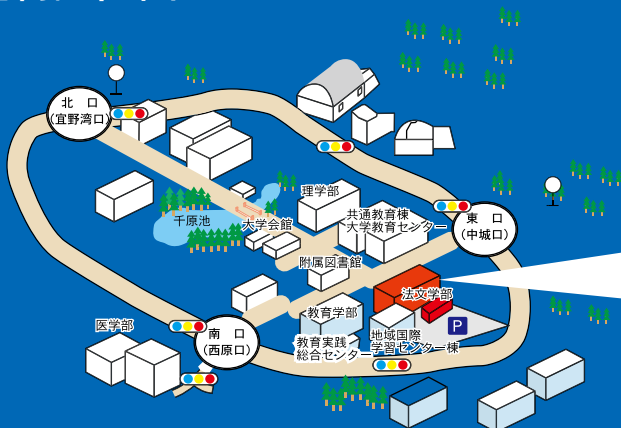
日 時：2008年4月25日（金） 17：15～18：15

第12回 講 師：南郷 辰洋（沖縄県情報産業協会 会長）
 話 題：沖縄の情報産業の現状と将来展望－必要とされる人材（仮題）
 日 時：2008年5月9日（金） 17：15～18：15

第13回 講 師：石嶺 伝一郎（沖縄電力株式会社 社長）
 話 題：企業の求める人材と沖縄のベンチャー起業（仮題）
 日 時：2008年5月30日（金） 17：15～18：15

※なお、学外来訪者をお願いして臨時フォーラムを開催することがあります。

建物配置図



法文学部新棟2階

